

# 林業用スマートフォンアプリ・サービス等の試作開発

HPH2015(北海道第一次産業ハッカソン2015)  
運営委員 北原 健太郎、齋藤 聖悟

## 研究の背景・目的

北海道では多くの人が第1次産業に携わっておりIT技術も浸透して来ています。しかし林業についての多くは北海道以外で作成されたものです。北海道は第1次産業が盛んな地域で、かつIT技術者も多く住んでいます。そこで直接北海道の第1次産業に関する課題を林業現場の人からヒアリングし、それらの課題をどうやって解決するか”有志のIT技術者”が核となってアイデアを出し合い、プロトタイプを作ることにしました。

## 研究の内容・成果

2015年度は農業と林業をテーマとして、2015年11月21日に恵庭にて林業関係者を囲んでアイデアを出し合うアイデアソンを行い多数のアイデアが生まれました。ここでは、伐倒時の安全確保アプリや、スマートヘルメットなどのアイデアがでました。これを受けて、早速デモアプリとして「伐倒・除伐時の安全確保アプリ」を作成しました。これは、Wifi-Directという機能を用いて電波の入らない林野でもスマートフォン同士であれば端末同士が通信して近接作業をさせないようにアラームをあげる仕組みでした。2016年1月23・24日にはさらに、参加者を募り、試作アプリケーションを作り込むハッカソン(短時間でプロトタイプを作成する手法)を行い、生まれたアイデアを具体的な形にしていきました。

写真1 アイデアソン

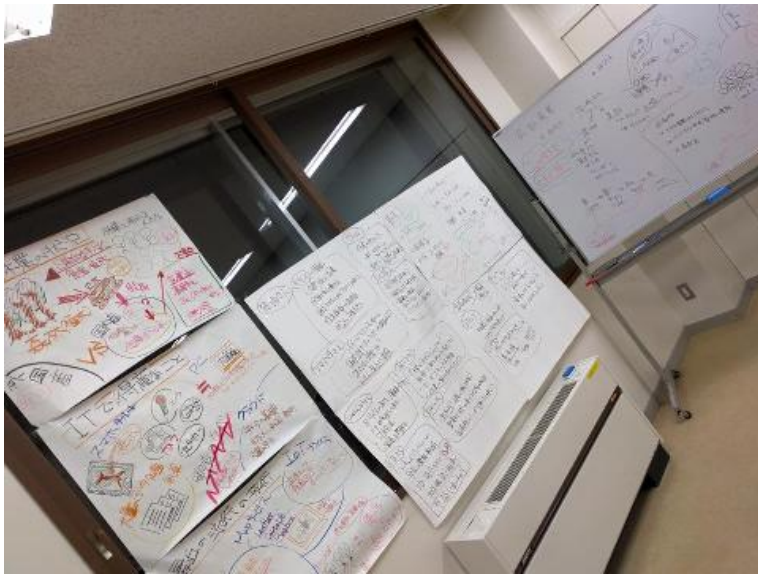


写真2 安全確保アプリ



## 今後の展開

1月のハッカソンで作成されたアプリは林業関係者に実際に使用してもらうなど、お題提供者へ再度ヒアリングを行い、色々な意見や改善点などを開発者へフィードバックして今年度の活動は終了する予定です。有用なアプリなどはその後も有志にて開発が進む可能性があります。好評であれば来年度も数回に分けて新しい価値を産みだせるようにアイデアソン・ハッカソンの運営を続けていきたいと考えています。